

企業立地推進事業

アナ： 「市長が語る 2017 三島」第 18 回の今日は、企業立地推進事業についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 現在、三島市では企業の誘致活動にとても力を入れているようですが、そこにはどのような狙いがあるのでしょうか。

市長： 三島市では、平成 28 年度に策定した「住むなら三島・総合戦略～まち・ひと・しごと創生～」のもと、若者の結婚から子育てまでの希望をかなえ、魅力的で品格あるまちづくり・ひとづくりを進め、幅広い世代の方々や企業から選ばれる都市の創生に取り組んでいるところでありますが、三島市が今後も更に発展していくために最も安定的な財源を確保するには、雇用の拡大というのは大変重要であると考えています。

このため、観光産業の振興、三島駅南口の開発とともに、企業誘致は今三島市が最も優先して取り組んでいる施策なのです。

アナ： なるほど、これから益々三島が発展するために、企業誘致というのは大変重要な鍵になるということですね。

市長： そうですね。三島市内で若い世代が安心して働くことのできる雇用環境の整備を図ることで、生産年齢人口の増加に繋がりたいと思います。

アナ： 具体的にはどのような取り組みをされているのでしょうか。

市長： 平成 18 年度に専門部署となる企業立地推進課を立ち上げ、三島市外の企業に対し誘致活動を行うとともに、市内の既存企業には、継続して訪問することでさまざまな企業活動のサポートをして、働く場が増えるように努めています。

特に現在は、平成 30 年秋の完成を予定している三ツ谷地区の工業団地に企業を誘致するため、総力をあげて重点的に推進しているところであります。

アナ： 工業団地の造成が進んでいるのですかね。規模はどのくらいになるのですか。

市長： 約 21 ヘクタールの計画地に、全 6 区画で 11.4 ヘクタールの用地提供を予定しています。これにより 1,000 人以上の新規雇用が生まれると期待しています。また、車で 5 分圏内には伊豆フルーツパークや三島スカイウォークがあり、近い将来、更に賑わいを増すエリアになることは間違いありません。

アナ： これからは箱根に向かう国道 1 号沿いに注目ですね。ところで、三ツ谷工業団地で操業するのは、どのような企業なのでしょうか。

市長： 三ツ谷工業団地で操業できるのは、製造業の工場、物流施設、研究所となっており、三島市では、工業団地周辺の環境に配慮した優良企業の誘致を進めています。また、工場見学ができる企業を誘致して、産業の拠点だけでなく観光の拠点として

の役割も果たしてほしいと考えています。

アナ： 働く人と訪れた人で賑わう工業団地とは素敵ですね。完成が楽しみになってきました。工業団地以外ではどのような企業誘致の取り組みをされていますか。

市長： 現在、国が主体となって進めている「働き方改革」の中で、テレワークが注目を集めています。三島市では、今年度よりテレワークを導入する企業の受け皿となるサテライトオフィスなどの整備を支援する補助制度を創設して、新たに2社を誘致しました。

アナ： 4月から始まって早くも2社の進出が決まったのですね。このようなオフィスを誘致することのメリットをおしえてください。

市長： オフィスは、工場ほど多くの雇用人数にはなりません。多様な職種の企業が立地することにより、多くの若者が三島で自分の就きたい仕事に就けるようになります。これは、三島市が進めている移住定住の施策にも大きな効果が出るものと期待しています。

アナ： 一言で企業誘致と言っても、いろいろな形があることが分かりました。これから1社でも多くの企業の誘致を進めて、ますます三島市を賑わいのある元気な街にしていきたいと思います。豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。